



2023.2.15

EuroLuce 2023.

"The city of Lights" : 探検、実験、知識のための空間。

「The city of Lights(光の街)」:これは見本市のコンセプトであり、テーマでもあります。これは、展示品の数と質だけでなく、想像力と具体的なビジョンが、その学際的な文化的内容を特徴づけていることを示唆しています。これにより、エウロルーチェは感動と知識の共有による幸福な実験室となることでしょう。

エウロルーチェの展示レイアウト(9-11 ホール、13-15 ホール)を一新し、進化を加速させることは、**展示内容の充実**という観点からも有意義なことです。単なるビジネスイベントや新製品発表の場ではなく、**人工光や自然光に関連する様々な分野の創造活動**を促進する機会でもあるのです。ミラノサローネはエウロルーチェを再構築し、発見と再発見、過去と未来への考察、宝物と感動のオープンスペース、テクノロジーと詩、建築とデザインの対話の時間、そして卓越したインスピレーションの源に昇華させるのです。

このプロジェクト“**The city of Lights**”は、ベッペ・フィネッシが科学的な見地から考案し、コーディネートした文化活動の一環として、**イベント、展示、インスタレーション**で構成される**多元的、多地点的、複合的なプロジェクト**です。

ベッペ・フィネッシによる説明:

「異なる声の存在の美しさと強さを信じ、そのために、異なる考え方、世代、背景を持つアーティストやキュレーターを巻き込んで想像し、実現した、複数のプロジェクトです。建築、インテリアデザイン、展示デザイン、インスタレーション、絵画、彫刻、写真など、さまざまな分野のクリエイティビティと対話することができる複合的なプロジェクトです。このプロジェクトは、知的で効果的かつ革新的なレイアウトから始まり、多くの展示やイベントを提案し、独自の異なる感性と言語を持つデザイナーがデザインしたスペースで開催され、エウロルーチェ 2023 のホールにバランスよく配置され、新しい光の街のアイデアを提案します」

この文化事業の主なコンセプトは“**The city of Lights**”であり、**多くの異なるビジョンの力**を利用し、**比較することによって生まれる付加価値ゆえに、非常に対照的な声の間で対話**することです。デザイン、言語、美学、理論の違いを超えて、様々なクリエイターが参加することで、矛盾を含んだ視点での実験や体験が可能となり、その対象や主体は「**光**」となります。

オブジェ、写真、ドローイング、彫刻、インスタレーション、ビデオによる 5 つの大型展示とサイトスペシフィックな大型インスタレーション、そしてディスプレイの間仕切りとなるフォルマファンタズマが設計した 12 のタワーが展示のコンテンツを形成し、詩的な幕間と展示経路の休憩の機会を提供します。

フォルマファンタズマのアンドレア・トリマルキとシモーネ・ファレジンが設計した 13 ホールの広場「AURORE (アウローレ)」は、このイベントの最も象徴的な場であり、光の新しい体験を呼び起こすために考案された、オリジナルで洗練されたインスタレーションの特別なアリーナです。このアリーナでは、現代の照明プロジェクトシーンで最も輝く人物たちによる一連のカンファレンスが開催されます。坂茂、田村奈穂、Snøhetta/スネヘッタの Kjetil Trædal Thorsen/シェティル・トレーダル・トールセンと Marius Myking/マリウス・マイキング、MAD の Andrea D'Antrassi/アンドレア・ダントラッシが、アンナリーザ・ロツソのキュレーションのもと、照明分野のイノベーションがいかに関わりの未来の生活を向上させるかについて、世界中から集まったジャーナリストより質問を受けることになります。この討論会では、プロジェクト、デザイン、建築がいかに関わりの現在を受け入れ、未来を想像し、新しい道を開き、解決策を考え出し、「可能性」を探求し、洞察力と想像力を誘発するかが示されるでしょう。また、カンファレンスが開催されない時間も、製品としての光、自然現象としての光、そしてその実存的な側面について考察する光の没入型のビデオ・オーディオインスタレーションとなり、光が人間や外界に及ぼす影響を測定する瞑想的な空間となります。光と色の周波数の違いにより、インスタレーションは私たちの五感を刺激し、宇宙的なスケールと光が星から地球まで移動する時間に言及し、生物発光や集約栽培、生物医学の分野での光の使用などの自然現象に触れることができます。

アンドレア・トリマルキとシモーネ・ファレジンは、「私たちが目指すのは、朝のプレゼンテーションに適した空間であると同時に、照明デザインがもたらす可能性と責任について考えるきっかけとなるような、非常に複雑な光のビジョンを提供することです」と述べています。

もうひとつの重要なスペースは、デザイン、アート、イラストレーションのブックショップで、「光」というテーマをさまざまな方法で探求した文学作品も並びます。著名な出版社だけでなく、ニッチな出版社、希少本、現在入手困難な本、ポスター、陶器、小さなオブジェや一点物、最新のアクセサリやビンテージアクセサリ、限定版プリントなどが並びます。このスペースは、Corraini Edizioni (コラーニ出版社) がキュレーションし、フォルマファンタズマがデザインした、一般的なブックショップとは全く異なり、親密で温かみのある居心地の良い空間です。このスペースは、単に本を販売するだけでなく、図書館のように本を閲覧できる場所として設計されました。その美学はエウロルーチェのすべてのインスタレーションやディスプレイと対話し、全体のキュレーションと展示プロジェクトの不可欠な一部となることでしょう。

サイトスペシフィック・インスタレーション

you can imagine the opposite (反対を想像する)

マウリツィオ・ナンヌッチ

現代美術における人工光の最も強力な解釈者の一人であるマウリツィオ・ナンヌッチによる、サイトスペシフィックなインスタレーション。「YOU CAN IMAGINE THE OPPOSITE」と書かれた長いネオンが、「反対を想像する」ことを理想とし、創造性と好奇心と高潔なアプローチを促します。

建築と自然光展

HELENE BINET/エレーヌ・ビネ. 自然、時間、建築

キュレーション: マッシモ・クルツィ

展示デザイン: マッシモ・クルツィ

現代を代表する写真家エレーヌ・ビネの作品を、自然光と建築、自然と時間の関係を探求した独創的なイメージのセレクションで紹介し、建築界の巨匠たちの作品に視覚的なナレーションを与えています。二重構造のボリュームの外側はブラッシュ仕上げのアルミニウムで、内側はミッドナイトブルーのフェルトで覆われ、「内」と「外」の力強いコントラストを作り出しています。内壁を覆うフェルトは、展示作品を際立たせ、外部の熱狂的な雑踏から切り離され消音された静かな音響環境を作り出します。

アート、デザイン展

FIAT BULB - エジソン症候群

キュレーション: マルティナ・サンツアレツロ

展示デザイン: マルティナ・サンツアレツロ

白熱電球は、一見シンプルでありながら、その形状に内在する強度を持ち、それゆえに象徴的で認識しやすい物体であることに敬意を表した展覧会です。アートとデザインを通して、現代の電球の歴史が語られます。この電球は、本来の実用的な用途から、不穏なオブジェや小さな実験的なインスタレーションへと変化し、驚きと逆説に満ちた作品として構成されています。循環する形で考案され、一般家庭の機能とはかけ離れたクールで工業的な素材から作られたこの展覧会は、その主題の「連続性」、作品としての独自性と結びついた形としての明らかな反復のアイデアを軸に展開されます。

デザイン展

Albe. Luci di domani (夜明け - 明日の光)

キュレーション: マッテオ・ピローラ

展示デザイン: *From outer space*

無限に広がる星の夜空と、太陽のある昼間の空は、デザインの実験場となるパレットです。テクノロジーと詩のバランスのとれた本展のリサーチと作品は、ここで再解釈された発光体が、いかに未来へ続く道を照らすかを明確に示しています。「人工の星」は、現代の「天文学者 - デザイナー」が検証しているすべての発光装置であり、発光現象、軌道上の球体、反射面、まばゆい日食、色を放つオーロラ、天体の色合いを示すオブジェを作り出すものです。このインスタレーションは、光の存在(または不在)と、空間の知覚を変化させるその能力に



基づいて構成されています。暗闇、半闇、純粋な光、あるいはその逆など、さまざまな異なる光の部屋を通り抜けられるようにして、展示作品の本質を際立たせます。

建築と人工光展

Interno Notte. Artifici luminosi (インテリアナイト。ブライト・アーティファクト)

キュレーション: ミケーレ・カルザヴァラ

展示デザイン: Berfu Bengisu Goren

人工光を主役とした室内建築のイメージ展示。ランプや光源が、創造的なジェスチャーによって特別な方法で空間に存在し、変化することを認識するための、数字、アクセント、閃光、星座、リズム、点、ベクトル、時には光の「気まぐれ」によって構成されるショーです。この展覧会は、歴史的でも年代順でもなく、照明工学的な基準で構成されているわけでもありません。展示空間は、展示スペースであると同時に、ワークショップやカンファレンスに使用されるエリアでもあり、開放的で多目的な性格を持つハイブリッドな性質を持っています。この二面性は、建築的な存在感のあるデザイン、相互関係と自律性を同時に宣言する空間とボリューム、そして光と闇、開放と閉鎖、パブリックとプライベートといった相反する知覚的な性質の共存によって解釈されています。

Costellazioni (星座) 展

キュレーション: ベッペ・フィネッシ

インスタレーション: フォルマファンタズマ

エウロルーチェの4つのホールの全展示ルートに12の展示スペースが設けられ、ドローイング、写真、絵画、ビデオインスタレーション、単体の作品、あるいはオブジェ群など、異なる形態で構成されながらも統一された言語によって結び付けられた建築の断片が広範囲に拡散したインスタレーションです。各作品には、現代の最も新しく最も権威ある批評家たちによる批評が添えられます。このプロジェクトのためにフォルマファンタズマは木と紙を使ったモジュール式の展示システムを考案しましたそれぞれの構成は異なりますが、すべての構造は、紙を包むフレームの繰り返しが特徴です。このスタジオの試みは、「軽く」「再利用可能」「使用後リサイクル可能」なディスプレイシステムを提案することです。素材はすべて簡単に分解でき、あえて塗装をせず、素材や接合部分が見えるように仕上げています。作品の展示に適した空間であると同時に、くつろぎと憩いの場となるように構成されています。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it